



はじめに—本研究の目的

1. 米軍による占領・統治は地域社会をどう変容させるか
2. 米軍基地を存続させる基本的メカニズムとは何か
3. そうした地域社会での主体の行為をどう理解すべきか
↓
4. 軍隊・軍事政策と住民の日常生活との交錯がもたらす諸「矛盾」の実態を明らかにし、米軍駐留を前提とする日本の安全保障政策を再考する端緒

2

研究対象地域・期間

- ・ 沖縄県沖縄本島
- ・ 1945年から72年までの米軍占領・統治期



3

コザ（現沖縄）市



4

主たる使用資料

- ・ 琉球列島米国民政府 (USCAR, 1950-72) 渉外局文書
 - ・ 日本、琉球政府 (市町村) 対策担当
 - ・ フォルター名 "Koza", 200枚以上の文書
- ・ 米国立公文書館新館 (Archives II) 所蔵、沖縄県公文書館マイクロフィルム所蔵
 - ・ 1997年機密解除、2001年以降国内検索可能

5

理論的枠組み —米軍駐留と地域社会の「軍事化」

- ・ Rokkan and Urwin (1983), Flora (1996)
 - ・ 中心—周辺関係とクレーヴィッジ論 (政党対立)
 - ・ 山崎 (2006)
- ・ Enloe (2000), エンロー (2006)
 - ・ 国際政治と軍隊・基地をめぐるフェミニスト (女性の軍事化) 研究
 - ・ 軍事化 militarization = 制度及び軍事主義的基準としての軍隊によって、何ものが制御され、それに依存し、そこから価値を引き出す漸進的なプロセス
 - ・ 山崎 (2008a, 2008b)
 - ・ 男性中心的な局面を含む多面的なプロセス、政治的局面 = 山崎 (投稿中)

6

軍事化の多面的プロセス (1)

- ・ 物理的軍事化
 - ・ 地域の60%を米軍基地が占拠
 - ・ 軍道敷設→都市・歓楽街形成



7

軍事化の多面的プロセス (2)

- ・ 社会経済的軍事化
 - ・ 基地関連産業の族生、社会構造変化
 - ・ Enloe (2000)



8

1960年代のコザ市政 (1)

- ・ 政治的軍事化と抵抗
 - ・ 大衆運動と政党政治 (Yamazaki 2004、山崎2006)
 - ・ USCARによる地方政治の制御
 - ・ 限定的な民主主義
 - ・ 親米保守政党を支援
 - ・ 反米 (革新) 的要素に制裁
 - ・ 地方選挙における保革 (親・反米) クリーヴァッジ (Rokkan and Urwin 1983、Flora 1996)
- ↑
- ・ 「基地経済」への依存
 - ・ 軍事化の経済的プロセスとして
 - ・ ベトナム戦争時の急激な経済・都市成長

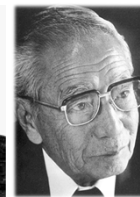
9

1960年代のコザ市政 (2)

- ・ 1958-74年
 - ・ 市長：大山朝常
 - ・ 革新系、社会大衆党、USCARは「反米的」と形容
 - ・ コザ市選出琉球政府立法院議員：桑江朝幸
 - ・ 保守系、沖縄民主党
 - ・ 1968年 琉球政府行政主席公選
 - ・ 屋良朝宙 (革新統一候補) 優位
 - ・ 1970年 国政参加 (衆参両院) 選挙
 - ・ 革新系候補優位
- ↓
- ・ 革新優位の本島中部地区のなかで市政に明確な保革クリーヴァッジ



<https://www.city.okinawa.okinawa.jp/ssseiyourann-2013/p48.html>



https://www.okinawa-tochiren.jp/cyoukou_kuwaie

10

USCARによる大山市政への支援

- ・ インフラ整備への自主財源不足←琉球政府、日本政府、USCAR・米軍
 - ・ USCAR渉外局は米軍基地からコザ市への援助フローをチェック
 - ・ 援助の地方選挙への影響を検討
 - ・ 親米派伸長工作としての米軍援助
 - ・ 米国に対する大山の言動を注視
 - ・ 援助受給者 (学校長など) の政治的属性を調査
- ↓
- ・ 渉外局は米軍援助を通して革新派が勢力を拡張しないよう常に留意

11

USCARの大山市長評価 (1)

- ・ 大山は左翼政党 (社会大衆党) の代表的人物として沖縄における米軍駐留をあからさまに批判
- ・ 渉外局は大山の言動を逐次監視
 - ・ 沖縄民主党 (親米保守政党) が渉外局に報告
 - ・ しほは大山の言葉を反米的 (共産主義的) とみなす
 - ・ 大山にもっと現実的、親米的になるよう警告

12

USCARの大山市長評価（2）

- ・にもかかわらず大山は嘉手納基地との「親善事業」を市政に有利に有利なるよう利用



13

市長選を控えての大山市政とUSCAR

- ・ 1966年のコザ市長選挙
- ・ 大山は三選出馬
- ・ 民主党と桑江議員は保守系候補を擁立・支援、渉外局と協力して大山の信用失墜を目指す
 - ・ 桑江は渉外局とUSCARに対し、米軍高官のコザ市制10周年記念式典への欠席を要請
 - ・ 桑江は渉外局と空軍司令官に対して、市長選挙前には大山と公式には面会しないよう要請

↓

- ・ 大山は得票率55%（投票率82%）で当選

14

三選後の大山市長とUSCAR（1）

- ・ 市長選後の嘉手納基地への渉外局の助言
 - ・ コザ市への援助を減少させ、親米的な（民主党系）村長を擁する嘉手納村への援助を増やすべき
 - ・ コザ市への援助を三ヶ月間凍結し、有権者に反米的であることの不利益を知らしめるべき
 - ・ コザ市への直接援助を大山ではなく桑江を通して行うことによって民主党に利するべき

15

三選後の大山市政とUSCAR（2）

- ・ 大山は1965年にUSCARに対し新しい消防署と火の見櫓建設への財政援助を要請
- ・ USCAR公安局は1965年に米軍要員を含む安全面から援助を勧告
- ・ 1966年の市長選後に公安局は渉外局に対し、大山より桑江に事業を推進させるよう助言
- ・ 最終的に渉外局と公安局はUSCAR民政官に対し、大山の反米的態度のために援助を遅延させるよう助言

↓

- ・ 1970年に大山は無投票四選、同年末コザ市内で反米暴動が勃発



16

おわりに

- ・ 米軍の駐留と基地建設
- ・ 付随する都市形成→基地への経済的従属
- ・ 政治的軍事化のプロセス
 - ・ USCARによる反米的要素への制裁
 - ・ 保守陣営とUSCARによる親米派伸長工作
- ↑
- ・ 1960年代に一貫した大山革新市政支持
 - ・ 左翼政治家として、大衆の反米感情を感知・利用
 - ・ 親米主義的行政家として、米軍駐留の利点を最大化
 - ・ 政治的軍事化は一方的な従属を生み出さず
 - ・ 固定民主主義の中に生まれた抵抗的政治空間



https://www.city.okinawa.okinawa.jp/about/233/234

17

参考文献

- ・ Enloe, C. (2000) *Maneuvers: The International Politics of Militarizing Women's Lives*. University of California Press, Berkeley.
- ・ シンシア・エロー (2006) 『策略—女性を軍事化する国際政治』(上野千鶴子監訳)、岩波書店
- ・ Flora, P. ed. (1996) *State Formation, Nation-Building, and Mass Politics in Europe: The Theory of Stain Rokkan*. Oxford University Press, Oxford.
- ・ Rokkan, S. and Urwin, D. (1983) *Economy, Territory, and Identity: Politics of West European Peripheries*. Sage, Beverley Hills.
- ・ Yamazaki T. (2004) *Political Space of Okinawa: Geographical Perspectives on Ethno-Regional Integration and Protest*. Unpublished Ph. D. dissertation Submitted to University of Colorado, Boulder
- ・ 山崎孝史 (2006) 「沖縄における民主主義のポリティクス—中心-周辺関係とグリーヴス構造」二十世紀研究7
- ・ 山崎孝史 (2008a) 「USCAR文書からみたAサイン制度とオフ・ミッツJKOZA BUNKA BOX 4
- ・ 山崎孝史 (2008b) 「USCAR文書からみたAサイン制度と亮春・性病規制—1970年前後の米軍風紀取締委員会議事録」沖縄県立大学学術研究報告10
- ・ 山崎孝史 (投稿中) 「大山コザ市政と琉球列島米国民政府」人権問題研究

18

おまけ

- ・ 大山朝常（1997）
- ・ まえがき これは、私の「遺書」にほかならない
- 序章 「ウチナーンチ」の怒り
- 第1章 基地の街・沖縄の真実
- 第2章 虐げられつつけてきた沖縄
- 第3章 沖縄戦、その悲劇
- 第4章 幻影だった「祖国復帰」
- 第5章 いまこそ沖縄の「独立」を
- ・ 沖縄の怒り、沖縄の悲しみ、それらはどこに根ざしているのか。そしてこれから沖縄はどう歩んでいくべきか。かつてコザ市長として「本土復帰運動」を担った著者が、常恨の思いで今までとこれからの沖縄を考える。



19

【論点】

- ・ 米軍統治下に置かれたコザ市において大山朝常による市政運営は、どう評価できるでしょうか。また、大山に対抗した桑江朝幸（のちの沖縄市長）の行動はどう評価できるでしょうか。コザ市民になったつもりで考えてみて下さい。

20